

上野天神祭鬼（鬼）：鬼行列の特徴①

鬼の行列の前は神輿行列が進む。神輿は神を宿す移動式神社で、祭りの期間中、街中を巡回する。

鬼の行列は、中柱と 4 本の棒で支えられ、ジグザグの紙垂で飾られた背の高い大御幣から始まる。大御幣の棒の色は伝統的な中国の 5 要素、火、水、木、金、土を表している。中央の柱は白で、他の 4 本の棒は、それらが表す方角に応じた色で塗装されており、東は緑、南は赤、西は黄色、北は黒を表している。

大御幣の後ろに続くのは、悪鬼（あつき）という強い鬼が役行者行列を導く。恐ろしい表情の能面をつけ、9 世紀から 12 世紀にかけて貴族が伝統的に身に着けていた狩衣をまとい、蛇のような体を隠している。昔の能面の複製品を被り、百人以上の参加者の行列が悪鬼の後ろを行進する。この行列の中心は、密教の修験道を確立したと言われる日本の伝説的な役行者（634～706）を代表する衣装を着た演者である。